９月の防除のポイント

令 和 7 年 8 月 27日
東京都病害虫防除所

主な作物の病害虫防除について、お知らせします。

＜イチゴ＞

イチゴは来年の５月頃までと栽培期間が長いため、この時期の管理で大きな差が出ます。自家採苗の苗は特に、葉、葉柄、ランナーの様子に注意し、健全な苗を厳選して定植しましょう。

〇ハダニ類

栽培初期に蔓延すると株の生育が著しく停滞し、収穫期まで発生が長引く傾向にあります。初発生を見落とさないように、こまめにほ場を見回り、11月頃までは入念な防除を行いましょう。また、ハダニ類は薬剤感受性が低下しやすいため、系統の異なる農薬のローテーション散布を心がけましょう。天敵農薬はハダニ類が多発する前に予防的に使用しましょう。天敵導入後に農薬散布する場合は、天敵に影響が少ない農薬を選択しましょう。

〇アザミウマ類

赤色防虫ネットを使用することで、ハウス内への侵入を抑制することができます。黄色粘着トラップをハウス内に設置することで、発生量や農薬散布するタイミングの目安になります。アザミウマ類に登録のある天敵農薬の中には、幼虫に対してのみ効果を発揮するものがあります。事前にアザミウマ類の防除を行ってから、天敵農薬を散布するのが効果的です。

〇炭疽病

炭疽病は高温多湿により発生が助長されます。定植後に発生すると薬剤での防除は困難なので、苗をよく観察し、株の萎凋、葉の黒色小斑点等、感染が疑われる苗は除外して、健全苗のみを定植しましょう。

＜キャベツ、ブロッコリー等のアブラナ科野菜＞

〇チョウ目幼虫

ハイマダラノメイガは生長点を食害するため、致命的な被害となります。定植時に粒剤を使用した場合でも、その効果が切れた後に被害を受ける可能

性があるので、注意が必要です。また、今後はタバコガ類やヨトウ類の増加期に入ります。食害を見つけたら速やかに防除を行いましょう。

〇ネギアザミウマ

その名のとおりネギの重要害虫であると同時に、キャベツやコマツナを加害する重要害虫でもあります。多発すると葉に目立つ傷ができたり、褐変したりします。殺虫剤抵抗性の事例が報告されているので、農薬の効き目を確認しながらローテーション散布を心がけましょう。

〇キスジノミハムシ

キスジノミハムシは、夏に増加します。成虫（図１）は葉に丸い小穴をあけ、ピンピン(虫)の異名で知られるよう、捕まえようとするとピンと跳ねます。幼虫にダイコンやカブ（図２）の表面を食害されると、商品価値は著しく低下します。秋になると被害は減少するので適期防除を心がけてください。

図１　キスジノミハムシ成虫

図２　カブの表面に食害の様子

〇細菌病

この時期に定植する作型では黒腐病、軟腐病等の細菌病が発生しやすくなります。これらの病害は、強い風雨による傷や昆虫の食害痕等から侵入するため、葉を食害する害虫等の防除を徹底するとともに、台風や大雨の後は天候が回復し次第、防除指針を参考に薬剤散布を行いましょう。

＜トマト＞

〇黄化葉巻病

８月に引き続き黄化葉巻病対策に重点を置いてください。収穫終了後、露地および施設栽培で黄化葉巻病に感染した株が見られます。このような株は次作での感染源になるので、速やかに抜き取り、完全に枯死させてから廃棄

しましょう。施設の場合は、晴天時に連続して２日以上、閉め切って蒸し込みを行うと媒介虫であるタバココナジラミの分散防止に効果的です。

抑制及び促成長期どり栽培では、タバココナジラミを入れない対策が重要です。施設には近紫外線除去フィルム及び0.4mm目合い以下の防虫ネットの展張が有効です。さらに、黄色粘着トラップで発生を監視し、コナジラミ類が確認されたときはタバココナジラミバイオタイプＱ成虫に効果が高い剤を散布しましょう。

上記以外の病害虫についてのご相談は、電話（042-525-8236）又はＥメール（S0200303@section.metro.tokyo.jp）にてお問い合わせ下さい。